



申13号

2021年度夏季手当等に関する申し入れ 第2回団体交渉を行う①

■足元の収入状況は回復している！

組合○昨年の夏季手当は、鉄道営業収入が下半期対前年比 88%で黒字だった。しかし、緊急事態宣言下の4月5月の状況を踏まえて、2.4ヶ月という回答だった。夏季手当を考える場合、足元の状況は重要である。
○会社はGWの利用状況について対前々年で言われている。重要なのは対前年である。GWの新幹線・特急列車のご利用状況は626%、近距離の状況も288%。4月の利用状況は定期外収入で近距離263.6%、中長距離1274.9%、計214.8%だ。
○足元の対前年から、回復していると見るべきである。

会社□決算の見方、足元の検証は様々な見方がある。
□昨年は大変厳しく、大幅な赤字だった。昨年の比較よりは、一昨年と比較しながら大きな目標の黒字化を実現したい。
□足元の状況は大事である。その時その時の状況をもって会社は判断したい。

■2021年度の見通しは「黒字」だ！

組合○2020年度は5,066億円の赤字。2021年度は250億円の黒字だ。3月期の決算短信では、鉄道運輸収入が85%まで回復しているとしている。
○黒字を見通す要因としては、①コロナの状況回復、②職場の努力による構造改革・コストダウン③職場の努力による100%の運行④人件費として定期昇給が抑制されていることである。

会社□社員のみなさんには1年以上にわたり、不安と緊張の中で様々な感染防止対策をとりながら、ご尽力いただき、諸施策に対する対応、諸施策へのチャレンジ、社員一丸となって生産性向上、収益力向上に対する取り組みをしていただいたことに感謝している。

今年は私たちの努力によって黒字だ！



注目！ ■回答は昨年以上で満額とすべき！

組合○対前年のGWの収入状況、足元の業績や黒字の見通しなどが今夏季手当を議論することの前提にならなければならない。回答は昨年以上で満額とすべきだ。

会社□手当は、足元の業績を踏まえて検討する。決算のみならず、足元の状況ならびに経済の状況、長期的な経営環境、内部要因、世間動向も踏まえて、全体を見て慎重に判断する。

■増え続けた純資産を今こそ還元すべきだ！

組合○人件費は過去最低となっている。しかし、純資産は上昇を続けてきた。JR発足の1988年と2020年を比べると(純資産は)621%になっているのに対して、人件費は101%、基準内賃金は143%に留まっている。業績が好調な時は突出感を理由にし、バアや期末手当が抑えられてきた。今こそ還元すべき。

会社□持続的に発展していく為に、財務体質の強化、将来への投資は必要不可欠。
□人件費は社員の減少、若返りによって減っている。一人ひとりの賃金が下がったということではない。

■株主配当だけではなく人へも投資すべきだ！

組合○株主総会で別途積立金から、繰越利益剰余金へ5,000億円を移す提案がある。株主配当を出すためなのか。
○ステークホルダーの1つとして株主、社員もいる。切り崩して株主配当するのであれば、我々にも投資すべきである。

会社□配当金については株主総会の事案である。お客さまや地域のみなさん、社員、株主配当も含めてステークホルダーの1つとして意識している。
□株主配当は一昨年165円、昨年度100円と4割引き下げした。配当と期末手当は別である。

その②へ続く